

第 15 回富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議の概要

1 日 時 令和 6 年 7 月 3 日（水） 13 : 30 ~ 15 : 00

2 場 所 富山県民会館 611 号室

3 内 容

（1）議 事

ア 富山県食品ロス削減推進計画に基づくこれまでの取組について

イ 令和 5 年度食品ロス・食品廃棄物等実態調査結果について

ウ 富山県食品ロス削減推進計画の見直し（骨子案）について

エ 意見交換

4 主な意見の概要

| 委員意見 | 対応等 |
|--|--|
| <p><計画骨子案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標年度までに目標を達成すればよいのではなく、来年度も再来年でも達成に向けて努力することが大事。 ・ 食品ロス削減の取組みを「見える化」して発信したほうが良い。 ・ 「見える化」や技術開発に対する支援が必要になってくる。 ・ 食べきり 3015 やサイズメニューの指標は目標を達成しているものの、あまり浸透していない。使い切り 3015 とあわせて PR していくべき | <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品ロスの削減目標は国の方向性を踏まえて検討しつつ、早期に達成できるよう努力してまいりたい。 ・ 食品ロス削減効果を検証し、検証結果の共有を図りたい。 ・ 「3015 運動」についてはさらに県民に浸透するよう引き続き取り組んでまいりたい。 |
| <p><事業系食品ロス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商慣習見直し宣言事業者には大手は大体参加しているが、中小はなかなか参加できていない。目標の 50 社を達成した場合、シェア率はどのくらいになるのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業の方にも商慣習見直し宣言事業者に参加していただけるよう取り組んでまいりたい。現在宣言事業者は 24 社であり小売業では売上高で 7 割のシェア率となっている。製造業や卸売業におけるデータがないこと、企業の規模にもよることから 50 社となった場合のシェア率は不明であるが、現在登録の少ない製造業や卸売業においても拡大できるよう取り組 |

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが明けて宴会等が増えるため、もう一度啓発が必要。 ・規格外野菜等を学校給食環境を含め有効活用していただきたい。 | <p>んでまいりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な手法を検討し、改めて周知に努めてまいりたい。 ・出荷規格が簡易な加工業務用の野菜の生産出荷を推進している。規格外野菜等については発生量の削減に向け栽培技術指導を行うとともに、その活用について啓発してまいりたい。 |
| <p><食品ロス全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人にも食品ロスの取組みが環境や生活を守るためにいいこととアピールしていけばよい。 ・コロナや物価高騰で比較できないような状況。行政から生産者、製造、流通、消費者一体となって取り組むべき。 ・小さいころからの教育が大事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから若者や大人まで、幅広く食品ロス削減対策に関心をもち、実践されるよう、引き続き関係機関と連携し、ホームページや出前県庁による講習会、学校の授業の活用など、様々な機会を通じ、周知に努めてまいりたい。 |
| <p><未利用食品の有効活用・再生利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品リサイクル法で削減目標が定められたので、意識するよう啓発が必要。 ・コロナや物価高騰の影響で、フードドライブの提供数が減っている場所がある。 <p>・県としてコンポストの推進に取り組むべきではないか。</p> <p>・とやま和牛酒粕育ちをもっとPRしてもよい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・食品リサイクル法の削減目標については周知に取り組んでまいりたい。 ・フードドライブについては、引き続き、開催情報や実績等の発信、実施団体への資機材の貸出し等による支援に努めてまいりたい。 ・コンポストについては、ご意見を踏まえ、市町村の家庭系生ごみの減量化及びリサイクルの取組み状況を情報共有するとともに、県民向けにウェブサイトに掲載した。また計画の推進施策にも新たに追記した。 ・生産者団体等と連携してイベントや SNS 等を通じてブランド力向上やPR活動に努めてきており、今後も多くの方にブランドを知ってもらえるようPRを図ってまいりたい。 |